

## 柏原のまちづくり～私が住んでみたいまちにするには？～

- 女性の活躍の場、女性が働けるまちづくり。そのために、ショッピングモールや魅力ある店舗を作る。
- 柏原市の情報発信におもしろさがない。お硬いイメージがあるので、市民や若者に関心を持ってもらうために、市の広報やホームページの作成に学生が参加して、興味を持ってもらう。
- 広報、広告が足りないのので、イベントのPRや、どこにどういう場所があるかというような事を、皆が興味を惹くデザインで作って見たら、皆知ることができて、まちが活性化するのでは？
- 公共交通の充実のために、交通情報の充実や整備を図る。
- 市内に学生の活動の場（チャレンジの場）。
- 高齢者の活躍の場を設ける。高齢者施設の充実を図る。
- ブドウの有効活用、地域の特色のアピール。
- 大和川等防災対策や河川敷の有効活用。

## ジョイフル国分ふれあいステーションの活用方法について～どんな事がしたい？何が出来る？～

### 〈PR方法の問題〉

- どんな場所か知らなかった。 ●イベントの告知をカレンダー方式にする。

### 〈開館時間が問題〉

- 早朝や夜も利用できるように開けてほしい。 ●シャッターが閉まると学生は寄り付かない。
- 地域の利用に限られる。

### 〈駅前開発の問題〉

- せっかく駅に近く、学生も多いのに、学生にとっては使い勝手が悪い。
- フリースペースとして開放。 ●部活動やサークル活動で利用。 研究スペースとして開放。
- 例えば21時まで学生カフェとして開放。 ●地域の方と学生の座談会の場。
- 手話サークルで、市民や子ども達に手話を知ってもらいたい。 ●介護者の憩いの場として開放。
- 研究スペースとして利用 ●健康、体操、ストレッチなど、卒業論文や研究でデータが必要なので、市民に参加していただいてデータが取れると嬉しい。 ●イベント会場 ●サークルの展示会場
- フリーマーケットの開催（同時に遊びの場を） ●レスパイトケア（介護者の癒しの場に）
- 幼稚園のイベント、遊びの場 ●保健センターとの連携で、学生の発表の場を。

## 大地震が発生！～君ならどうする？何が出来る？～

- 地震が発生した時には、貴重品を持って出る予定であったのに、いざという時には何もできなかった。→事前に対策をする必要があるのので、高校生ぐらいから避難訓練を何度も行う。
- 学科ごとにケア出来ることがある。
- 子ども、学生、高齢者など多世代でコミュニケーションを取っておく。
- 地域のつながりが大事。どんな人が住んでいるのか情報を伝える。
- 家族の安否など情報収集手段を考えておく。 ●柏原市の地域性で災害の危険性が高い。
- 体験者の話を聞いたりし、前もって情報を入手しておく。
- 備蓄食のビスケットは意外に食べにくい。ライフステージにあった食事を準備しておく。
- 難聴の方は警報が聞こえにくい。逃げ遅れる。付き添いの方が必要。
- 日中は大人が少ない。いざという時は学生が動ける。
- 学校が避難場所となっているので、教室でデイサービスなどの環境を作ることができる。
- 体育館など実際に避難所を設営してみる。 ●道が集中しないようにルートを知っておく。
- まずは自分の分の防止グッズを備えておく。
- 自分の役割を知ること、知識をより多くの方が幅広くもつこと。
- 防災について家族で話し合う機会がないので、防災イベント（ジョイフル国分を活用）などに参加して、話す場を作る。
- 避難した時の衣食には限りがあるので、行政には十分な数を備えて欲しい。
- 避難生活が長期化した時、動きを指示してくれたほうが、スムーズに無駄なく動ける。